

令和 3 年度 墨田区立吾嬬立花中学校 経営報告書

令和 4 年 3 月 6 日

<p>学 校 目 標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○進んで学び、深く考え、行動できる生徒 ○誠実で、思いやりのある生徒 ○自らきたえ、心身ともに健やかな生徒
<p>目指す学校像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「寄り添い、共に歩み、喜びを分かち合う学校」 ○「だれにでもやさしい学校」 ○「学力向上」を図る授業改善 ○「自主自律」を育む生活指導 ○「自尊感情」を育む学校行事・部活動 ○「地域への愛情」を育む連携行事
<p>目指す子供像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習や様々な活動に意欲的に取り組み、目標に向かって努力する生徒 ○社会のルールを理解し、規範意識を身に付け、社会に貢献しようとする生徒 ○人の立場を理解し、協調性のある生徒 ○心身をきたえ、思いやりのある生徒
<p>目指す教師像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○広い視野に立ち、組織的に行動できる教師 ○互いのコミュニケーションを大切にし、教育目標を達成しようとする教師 ○研修に励み、自己の授業力向上を目指すとともに、新学習指導要領に対応した授業改善に努力する教師 ○校内 O J T を日常的に実践し、研鑽に励み、自己の能力と資質の向上に努める教師 ○UD教育を推進し、生徒一人一人の気持ちを理解しながらどの生徒にも公平に対応できる教師 ○保護者・地域の願いや思いを理解できる教師 ○いじめ・暴力・暴言等に対し、不適切な指導や体罰を伴わない毅然とした態度で指導できる教師

様式 4

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	知識・技能を徹底し思考力・判断力・表現力を伸ばす授業	C	知識の習得を徹底する目的で、各教科での取り組みに加えて、基礎学力コンテストや吾立学院等で、プリントやタブレットなどを用いたドリル学習を実施し、定期考査や学力調査等で知識技能の観点で数値の向上は見られた。今後は知識技能の定着を図る取り組みの継続とともに、獲得した知識を用いて記述したり会話したりする表現活動などを通して、思考力・判断力・表現力を伸ばす取り組みを組織的に実施していくことが課題である。	A	A
	ユニバーサルデザイン教育を取り入れ、どの生徒にとっても分かりやすい授業	B	校内委員会やゆうあい教室と連携を強化し、全教科でユニバーサルデザインを意識した授業を展開する。具体的には <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士の教え合いの場を増やす。 ・板書の文字の大きさや色に留意する。掲示物の工夫。 ・印刷物のフォントや文字量を工夫。 ・支援を必要とする生徒への対応や声かけの工夫。(曖昧な表現は避け、短く具体的に)等を実行していく。 	B	A
	社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等	B	各学年がキャリア教育を推進し、新型コロナの影響で職場体験などが中止となる中、1, 2学年で代替の職業講話を企画した。 生徒の家庭の事情を考慮して進学指導が滞りなく進むよう手続きの進捗を確認するなど配慮をしている。今後も進路指導のさらなる充実が必要である。	B	B
	教員の指導力・授業力を高めるための、組織的な取組等	C	年間2回の研究授業の実施を中心に、授業力向上のための研修を、研修部や教務部、進路指導部、学力向上委員会などで組織的に企画・運営して行った。また、学校長による授業観察・指導も年に3回行い、生徒の知識技能の定着と思考・判断・表現力の向上を図るための授業の工夫を行った。今後は新学習指導要領の指導と評価をさらに研究し、授業実践の経験を積むことが課題である。	B	A
	主体的な学びと家庭学習の確立	B	ロイロノートの提出BOXの活用により、家庭学習の提出率が各教科とも上がった。今後は、UD特別支援校内委員会と連携し、個別対応が必要な生徒の家庭学習の実施を支える策を組織的に行っていくことが課題である。	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で先生方がかなり努力されていることがよくわかります。今後も生徒の為に粘り強く分かりやすい教育に努めてください。 ・学校内保護者として日々の生活は捉えられず、評価することは大変難しいと感じます。包み隠さず自己評価して下さることに学校、先生方を信用します。 ・自己評価について我々は評価できません。 ・タブレット端末の活用、すみだSSTの活用等により学力向上を取りまく環境が整いつつあり、着実に学力が向上していると思われます。 		

様式 4

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	問題行動の予防や解決に向けた組織的な取組等	B	情報共有をしっかりと行い、共通実践を行っているが日頃から生徒と良好な関係を築いていく。	B	A
	基本的な生活・社会習慣、人間関係作りのための心の教育等	B	朝礼、学年集会等の機会を捉えて進めていく。行事や諸活動を通して達成感を与えられるようにする。学級活動を通して、粘り強く推進していく。	B	A
	安全を確保するための取組等	A	今後も休み時間の見守り体制を維持・強化しながら危険な行動については、その場で指導する。また、避難訓練の計画を早めに出して周知徹底する。	A	A
	不登校の解消	B	今後も状況に応じて、家庭訪問や別室対応を行う。家庭はもちろん、SCや外部機関とも連携し、電話連絡だけではなく、ロイロノートも活用する。行事や学級活動の充実をはかり良好な人間関係を構築できるよう指導していく。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等		<ul style="list-style-type: none"> ・先生方は大変よくがんばっておられます。今後も生徒との会話等を大切に生徒の悩みにいち早く気づき対応をお願いします。 ・引き続き生徒に寄り添い、目線を合わせ、生活指導を行ってほしい。 ・生活指導の面では立派だと思います。身なり、挨拶、態度も ・学校に行きたくないと子どもが言ったとき、親ができること、先生ができること、地域ができることを考えていきたい。 		

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等	C	概ね学校経営方針のもと組織的に対応はできていたと考える。しかし、学習指導に於いて生徒の困っている状況を把握し、「わかった、できた」といった達成感を持たせられるまでには至らなかった。今後は授業観察等で助言しながら、授業改善に取り組みせ、一人でも多くの生徒の自己肯定感を向上させ、学習意欲を高めていきたい。	B	A
	子供の実態に合わせた教育目標設定及び評価等	B	アンケートを実施し、生徒の実態を知ることができた。実態に合わせた指導をしていくことが必要だと再確認した。	B	A
	教育環境・設備等の整備状況等	B	ICT等の設備はだいぶ整ってきた。使用方法等はICT部でも模索中である。より活用できるようにお互いに情報を共有していきたい。	A	A
	体罰等服務事故防止	A	本年も服務事故案件は発生していない。継続してコンプライアンスを意識させながら公務員としての自覚を持たせ、服務事故防止に努めていきたい。	A	A

様式 4

	学校関係者評価委員会の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境・整備など時代に合わせて進んでほしい。 ・服務事故は後を絶えない、毎日の様にマスコミ報道されている。過去にも吾嬭一中時代に起きた例もあり、人の模範となるよう自己意識を持つことが大切である。
--	----------------	--

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	教育方針や日常の教育活動の様子などを伝える取組等	B	ホームページ・学校便りを通して、伝える取り組みをしてきた。ホームページでは、個人情報保護の観点との兼ね合いを考えながら、学年に担当者を置き、さらに行事ごとの生徒の様子などを伝えることもできると思う。	B	A
	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動の推進等	A	保護者や地域の意見を大切にしながら教育活動を行ってきた。今後も継続していきたい。	A	A
	吾立中ブロック小学校3校、幼稚園保育園との連携強化	B	本来集合して、情報共有ができるはずの幼保小中連絡協議会が、コロナ禍でオンライン実施になってしまい、連携が取りづらい面もあった。一方で、作品展での作品交流のために幼保小の先生方が多大な協力をしてくださった。機会を適切に設ければ、連携をさらに深めていけると実感した。	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍によって、直接学校と生徒が向かい合う機会が少なくなりましたが、学校・保護者・地域が協力し合って生徒の成長を応援していきたいと思えます。 ・地域・学校・保護者が一つとなり、生徒を見守る。学校を中心に情報発信し、輪を引き続きお願いします。 ・コロナ禍で様々な事が中止となる中、最大限できることを対応してくれていると感じました。 		

2 令和3年度学校評価のまとめ

<p>学校経営方針のもと掲げた方針に対して概ね組織的に対応はできたと考える。これまで問題行動の予防や解決に向けた組織的な取組等、基本的な生活・社会習慣、人間関係作りのための心の教育を重視し誠実で思いやりある生徒を育成してきた。また、ホームページ・学校便りを通して教育活動の様子等の情報発信を行うとともに保護者や地域の意見を積極的に取り入れながら教育活動を行うなど「寄り添い、共に歩み、喜びを分かち合える」学校を目指してきた。学習指導においては、生徒の困っている状況を把握し、ある一定数の生徒に対して「わかった、できた」といった達成感を持たせることはできたが全員までとは至らなかった。全教科でユニバーサルデザインを意識した授業を展開し、知識技能の定着を図りながら獲得した知識や技能を用いて記述したり会話したりする表現活動などを通して、思考力・判断力・表現力を伸ばす取り組みを組織的に実施していく。来年度は学習活動や特別活動等においてどの生徒も前向きに活動に参加できる「やさしい教育」を目指していく。</p>
--

以上の通り報告いたします。

墨田区立吾嬭立花中学校 校長 佐藤 順一 公印